

形成外科

部長 杉田 直哉

診療体制

形成外科は、4月に木村祐介医師が大阪医科薬科大学より当院へ赴任しました。本年も赤松順部長（日本形成外科学会領域指導医・皮膚腫瘍外科分野指導専門医・小児形成外科分野指導医・日本創傷外科学会専門医・日本創傷外科学会評議員・日本褥瘡学会評議委員・褥瘡認定師）、杉田直哉部長（日本形成外科学会領域指導医・小児形成外科分野指導医・日本創傷外科学会専門医・皮膚腫瘍外科分野指導専門医）、木村祐介医師の形成外科3人体制が維持されました。

診療実績

新型コロナウイルス感染症が5月8日に5類感染症となり、コロナ禍前の日常が戻りつつあります。年間の新患者数は216名、入院患者数は148名と昨年度に引き続き減少した一年でした。手術件数は、入院手術333例と増加、外来手術156例と減少しました。（表1）。また、麻酔法別内訳は、外来手術では腰麻・伝達麻酔1例、局所麻酔153例で、入院手術では全身麻酔254例、腰麻・硬麻・伝達麻酔48例、局所麻酔31例で、全身麻酔症例の減少、伝達麻酔手術の増加が目立ちました。2017度より、症例登録がNCDに移行し、報告様式に変更がありました。形成外科疾患データベースより形成外科専門医認定施設要件と過去6年間の件数推移を示します（表2）。I.外傷（熱傷・凍傷・化学損傷・電撃傷の手術症例、顔面軟部組織損傷、顔面骨折、頭部・頸部・体幹の外傷、上肢の外傷、下肢の外傷、外傷後の組織欠損（2次再建））が、18%減、II.先天異常（唇裂・口蓋裂、頭蓋・顎・顔面の先天異常、頸部の先天異常、四肢の先天異常、体幹（その他）の先天異常）が同数、III.腫瘍（良性腫瘍（レーザー治療を除く）、悪性腫瘍、腫瘍の続発症、腫瘍切除後の組織欠損（一次再建）、腫瘍切除後の組織欠損（二次再建））が同数、IV.瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイドが175%増、V.難治性潰瘍（褥瘡、その他の潰瘍が15%増加、VI.炎症・変性疾患（蜂窩織炎、眼瞼下垂、陥入爪、腋臭症など）が18%増、VIII.その他（性同一性障害、ブラッドアクセス、分類不能など）が23%減、Extra.レーザー治療が1087%増と、待機可能な疾患の手術も増加してきました。新型コロナウイルス感染症の影響もありますが、今後も高知県の自然人口減少や高齢化に対する対応の継続が必要と考えられます。8項目中7項目の分野の症例があり、規定の5項目以上の要件を充足しました。また、8項目中9件以下が、当院では基本的に扱っていないVII.美容（手術）の1項目のほか、II.先天異常（唇裂・口蓋裂、頭蓋・顎・顔面の先天異常、頸部の先天異常、四肢の先天異常、体幹（その他）の先天異常）5件、IV.瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド22件で、規定の3項目以内の要件を充足致しました。学会、論文発表など学術面での基準も、後述の如く充足致しました。

表1 年次別入院患者総数と手術件数（過去6年間）

| | 2018年 | 2019年 | 2020年 | 2021年 | 2022年 | 2023年 |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 入院手術 | 301 | 321 | 330 | 307 | 328 | 333 |
| 外来手術 | 291 | 291 | 183 | 212 | 176 | 156 |
| 合計係数 | 446.5 | 466.5 | 421.5 | 413 | 504 | 412 |
| 入院患者総数 | 190 | 193 | 173 | 163 | 174 | 148 |

表 2 年次別手術件数の症例内訳 (過去 6 年間)

| | 2018 年 | 2019 年 | 2020 年 | 2021 年 | 2022 年 | 2023 年 |
|-----------------------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| I. 外傷 (全身管理を要する非手術例は含まず) | 152 | 198 | 146 | 121 | 110 | 82 |
| II. 先天異常 | 12 | 11 | 7 | 3 | 5 | 5 |
| III. 腫瘍 | 169 | 158 | 123 | 128 | 125 | 125 |
| IV. 瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド | 24 | 22 | 7 | 7 | 8 | 22 |
| V. 難治性潰瘍 | 125 | 157 | 180 | 215 | 206 | 209 |
| VI. 炎症・変性疾患 | 22 | 25 | 23 | 15 | 16 | 19 |
| VII. 美容 (手術) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| VIII. その他 | 47 | 21 | 14 | 27 | 26 | 20 |
| Extra. レーザー治療 | 41 | 20 | 13 | 3 | 8 | 87 |
| 大分類 計 | 592 | 612 | 513 | 519 | 504 | 489 |

当科の特徴

近森病院は急性期特定病院、地域医療支援病院、管理型臨床研修病院、災害支援病院など急性期地域密着型の医療を行っている。形成外科は其中で顔面四肢の外傷や熱傷の治療はもちろん幅広く形成外科診療を行っている。当院の特徴、地域性により、最近では創傷外科分野における治療ニーズが上昇しており、急性期創傷のみならず、基礎疾患を持った慢性期創傷や皮膚・軟部組織悪性腫瘍の増加が顕著である。瘢痕・瘢痕拘縮の治療や創傷治癒に関する高い専門性を生かし、当院の特徴であるチーム医療及び垣根の低い他科との連携を通じて、医師として当然求められる知識、技術、倫理観などを持った一般外科救急臨床医としての資質を持った形成外科医の育成にも力を入れている。今年度も複数名の初期臨床研修医の指導を担当致しました。学外臨床実習も複数の大学から受け入れをしました。さらに、高知県消防学校救急科へ講師派遣、特定看護行為研修における創傷管理関係を担当し、実習などを行っています。

例年、学会発表などで、積極的に学術的情報発信を行っています。本年度も、学会発表や教育講演などを行いました。

3月17日に第24回日本褥瘡学会中国四国地方会学術集会をかるぼーとで開催いたしました。テーマは「レジリエント・コミュニケーション in 高知」でした。学会には多数のご参加を頂き盛況のうちに終えることができました。

形成外科外来

外来センター4階北側の形成外科5診6診で主に診察処置、7診でミニカンファ・患者指導、8診処置室でQスイッチアレクサンドライトレーザーによる色素性疾患、外傷性刺青の治療、CO₂レーザーによる皮膚剥削、腫瘍切除など蒸散治療、ラジオ波による焼灼治療、陥入爪手術(簡単)などの小手術を行っています。また皮膚・排泄ケア認定看護師との連携も密に行っています。

臨床研究課題

慢性動脈閉塞症の潰瘍治療に対して、厚生労働省より条件及び期限付で保険収載されたコラテジェン®(遺伝子治療用製品で、再生医療等製品に区分)に関して、当院は、高度な集学的連携可能な施設としてコラテジェン®による遺伝子治療を許可されています。当科受診時に重症化している患者様が多く、早期受診が重要と考えられます。

難治性皮膚潰瘍に対する新しい治療として、再生医療であるPRP(多血小板血漿)処置が令和2年に保険適用となりました。当院はPRP処置の条件である施設基準に適合しており、第3種再生医療等提供計画の事前届出を行い、治療を開始しております。

学術発表・講演会等

学会発表

| 演題 | 発表者 共同研究者 | 学会名 | 開催 |
|----------------------------------|--|---------------------------|--------------------------|
| 遊離植皮において三次元ワイヤーフレーム外固定法を行った症例の検討 | 近森病院 形成外科 木村 祐介 赤松 順 杉田 直哉 北村 龍彦 大阪医科薬科大学 形成外科 上田 晃一 | 第 83 回中国・四国形成外科 学会学術集会 | 9 月 10 日 WEB 開催 |
| 両側内脚隆起の突出により生じた先天性鼻腔狭窄症に対する発生的考察 | 大阪医科薬科大学 医学部 形成外科 上田 晃一 木野 絃美 梅田 千鶴 近森病院 形成外科 杉田 直哉 赤松 順 河瀬 弘代 | 第 41 回日本頭蓋額顔面外科 学会学術集会 | 11 月 9 日・ 10 日 兵庫県 |
| DACC 創傷被覆材の特性と臨床的所見 | 近森病院 形成外科 赤松 順 杉田 直哉 木村 祐介 | 第 36 回日本外科感染症学会 総会学術集会 | 12 月 15 日・16 日 福岡県 |

講演

| 演題 | 発表者 共同研究者 | 学会名 | 開催 |
|--|-------------------|---------------------------|-------------------|
| 局所陰圧閉鎖療法の基本と応用 ～使いこなすために知っておきたい 知識と工夫～ | 近森病院 形成外科 赤松 順 | 第 82 回中国・四国形成外科 学会学術集会 | 2 月 5 日 WEB 開催 |